

2019 年度 事業報告書

特定非営利活動法人ワークレッシュ

I 事業期間

2019(平成31)年4月1日～2020(令和2)年3月31日【第18期】

II 事業の実施状況

1 特定非営利活動に係る事業

- (1)【事業名】～子どものためのコミュニティ・スペース～
ワークレッシュ 及び
子育て拠点施設における一時預かり事業

【実施場所】ファズガーデン

(茱萸木6丁目985番地の1)他

【実施日数】282日

【利用人数】延べ3,033名(前年度2,525名)

【対象者】0歳～18歳

【方針】

日中から夜間までの間や学校の長期休業日に、保護者が就労、育児・介護、疾病等により、子どもを保育することが出来ない場合などに、子どもたちに遊びと学習環境と、保育スタッフの配置のもとに安全で自立的な生活の場を提供する。

また、子どものためのコミュニティ・スペースとして、レクリエーションや学習、生活全般を通して、子ども同士のコミュニケーションの機会を提供する。子ども・保護者からの種々の相談に応じる。さらに、地域活動に積極的に参加し、会員相互のみならず地域との交流を促し、地域福祉力の増進に寄与する。

◆自主事業

別紙「CS 部門報告書」参照

◆出張保育

料金：保育従事者1人あたり1,200円/30分～

「知って得する！女性のためのマネーライフプラン」一時保育

9月11・25日・10月9日 10:00～12:00

[場所]子育て支援・世代間交流センター(UPっぶ)

[依頼主]大阪狭山市男女共同参画推進センター(きらっとぴあ)



◆地域イベントへの参加

4月28日 狭山池まつり 団体PR「ヨーヨー屋！」

11月9日 はばたきフェスタ 模擬店「カレーうどん屋！」

令和2年1月12日 新春こどもまつり 模擬店「カレーうどん屋！」

◆講師派遣 他

- 大阪狭山市プレイセンター推進事業

テーマ：親子の交流・親同士の親睦を深める

5月27日「ヤミー！！」自由丘会館

6月11日「げんきっず」狭山地区会館

6月14日「こぐまの会」東池尻会館

【収入】（自主事業）2,699,136円 （一時預かり事業）7,035,550円

【支出】（自主事業）3,274,794円 （一時預かり事業）7,321,107円

(2)【事業名】大阪狭山市地域子育て支援拠点事業（Ⅱ 事業の実施状況）

【対象者】子育て中の親子

【主な実施場所】ファズガーデン（茱萸木6丁目985番地の1）

【内容】

1、子育て親子の交流、集いの場の提供

①つどいの広場 ファズガーデン

月～土 10時～16時

・開設日数：252日

・参加組数：3,651組（前年度：4,797組）

・参加者数：8,596人（前年度：10,839人）

②設定行事

◆「ふれあい遊び」「父さんと一緒」

◆「水遊び」：7、8月の概ね週2回実施。

③サークル活動 「ベビーマッサージ」

2、子育てに関する相談・援助の実施

1の開設時間内及び登録オリエンテーション時における個別懇談を実施。

3、地域の子育て関連情報の提供

1の広場における情報コーナーの設置。

行事カレンダーの発行。「子ども・子育て関連図書コーナー」の設置。

ブログ「Work+Creche! COMMUES」、Facebookにて情報発信。

4、子育て及び子育て支援に関する講習の実施

①子育てなんでも相談 毎週金曜日 10:00～12:00

②子育て支援に関する講座

・全14回



・延べ 111 組参加

「親子でおやつ作り～みたらし団子～」 「子どもの歯の健康について」

「子どもの病気と看病のしかた」

「親子でクッキング～一緒に豚まんを作って食べよう～」

「赤ちゃんとおっこりさろん」(2 回) 「聞いてみよう からだの話」

「昼食作り～キンパ～」 「昼食作り～野菜パン・豆乳チャウダー～」

「陶芸体験」 「産前・産後の骨盤ケア」 「スマホで撮ろう!子どもに素顔」

「親子でクッキング～春巻き・副菜～」

「子どもに育つチャンスを～乳幼児期の育ち、親の役割～」

5、異世代間の交流機会の提供

対象者:地域の子育て中の親子(母親・未就園児に限らない)、地域住民

・実施回数:6 回

・参加人数:575 名

・実施場所:ファンズガーデン、副池オアシス公園

「おでかけ合同ひろば@副池」 「夏まつり」

「シュロの葉で虫を作ろう」 「クリスマス会」

「合同ひろば ～もちつき体験～」 「合同消防訓練」

上記の他の取組

◆健康講座「姿勢」全 20 回

◆委託販売

ワークくみのきのクッキー(常設)、拓共同作業所ロバのパン(月 1 回)

◆たそがれ時のコミュニティ・スペース「おむすび村」

・実施回数:10 回(8 月は台所排水不良の為、3 月は感染症予防の為中止)

・実施日時:毎月第 4 木曜日 17 時から 20 時

・参加人数:延べ 436 名

6、その他

◆防災・避難訓練の実施

・全 2 回 参加人数:57 名(保育部門、フェイス部門の利用者含む)

【収 入】8,136,168 円

【支 出】9,947,416 円



(3)【事業名】児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス (Ⅱ 事業の実施状況)

【実施場所】旧くみの木幼稚園内(茱萸木 6 丁目 985 番地の 1)

【実施日数】285 日(休日:日曜、国民の祝日に関する法律に規定

する休日、8/12～8/17、9/7、12/28～翌年 1/4、3/31)

【開設時間】平日:12 時 30 分から 18 時 30 分

土曜・長期休暇中:10 時から 18 時



【対 象】 (2020 年 3 月末現在) 2 歳～17 歳の児童 24 名

【利用人数】 延べ 2,943 名 (24 名うち未就学児 3 名/23 家庭)

1 日 平均 10.33 名 (定員 10 名・欠席加算、懇談分含まず)

【目 的】 障害のある学齢期の児童の健全な育成を支えるため、身体及び精神・環境に応じて、日常生活における基本的動作や知識技能の習得、並びに集団生活に適応するための指導訓練等を提供し、生活能力の向上と地域社会との交流を図る。

【内 容】 子どもの発達過程や特性、適応行動の状況を了解した上で、一人ひとりの置かれている状況や願いに即した個別支援計画を作成し、発達支援等を行った。

下記の 2) 基本活動以下の活動を複数組み合わせることで日常のスケジュールを構成し、1 日 30 分の集団療育プログラム (パーソナル・アクティビティ) を毎日実施した。

1) 個別支援計画の作成

全児童について年間で 2 通作成し、下記の具体的支援を進めた。

2) 基本活動

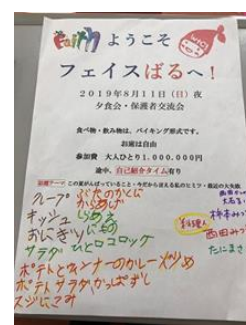
ア 自立支援と日常生活の充実のための活動

(1) 基本的日常生活動作や自立生活を支援する

[仲間を意識したグループ遊び・柔軟/リハビリ体操・手洗いうがい・学習・掃除・持ち物管理・あいさつ・言葉遣い・送迎ルール・交通マナー・身支度・身だしなみ・身体の清潔・外食・プール・入浴/食事マナー・買物・後片付け・作物と生物の世話・PC/タブレット操作・個別支援計画に基づく外出や宿泊]

(2) 子どもが意欲的に関われる学びと遊びを通して、成功体験の積み増しを促し、自己肯定感を育む

[チャレンジカードによる目標管理と自己評価・目標やコメントの発表、季節の部屋飾り・カレンダー作成・誕生月や卒入学のお祝い・身体/体力測定・終わりの会での 1 日のふりかえり・個人のリクエストによる遊具や教材の導入・懇談・子ども会議・夕食会「フェイスばる」調理担当]



(3) 学校・保護者との連携を図りながら、将来の自立や地域生活を見据えた活動を行う

[放デイスポーツフェスタ (大阪狭山市地域自立支援協議会主催)、障害児通所部会研修の企画開催・他事業所/学校訪問・ケース会議への出席・他事業所の視察受入・性教育ワークショップに参加・保護者交流会・個人懇談・避難訓練・保護者アンケート・活動拠点の引越し]

イ 創作活動

[季節行事(忘年会・餅つき等)・楽器(電子ピアノ)・裁縫・書道・絵画・団旗、のれんづくり・革細工・木材加工・日用品の修繕・献立調理(収穫・仕入れ・おやつ作り・世界の料理を知るプログラム)]

ウ 地域交流の機会の提供

[おむすび村・新春こどもまつり・初詣・地蔵盆・ワークレッシュのなつまつり・はばたきフェスタ・保育部門やつどいの広場部門の行事参加(合同ひろば、ハロウィン等)や日常交流・ホンダ学園祭・消防署訪問・地域探検・仕事インタビュー・地域社会体験インターンシップの受入れ(大阪大谷大学)・近隣の就労継続支援事業所が運営するレストランや店舗へ・他事業所との交友等]

エ 余暇の提供

[自由時間の室内遊び(アナログゲーム・コミュニケーションゲーム)、屋外遊び(ジョギング・サッカー・バスケットボール等)、遠足/外出(結の里・花の文化園・寺ヶ池公園・泉佐野漁協市場・ふれあいの里・夜桜見物・蛍観賞・狭山池/副池散策・東大池公園)、映画鑑賞、外食・喫茶懇談、個別の休息時間と場所の確保]



3) 介護サービス 更衣、排泄等の身体介助

年齢に関わらず、可能な限り同性介助を行った。



4) 送迎サービス 5,070件(1日平均17.8件)

事業所が所有または借用する車両により、利用者の自宅又は学校と事業所の間の送迎を行った。専属ドライバーは登用せず、児童の直接支援に携わる指導員が運転手を兼任している。運転技能実習や運行時及び添乗中のルール・マナーの継承を行った。



【収入】33,736,279円(V評価益含む)

【支出】27,184,334円(V評価費用含む)



2 その他の事業

実施せず

Ⅲ 事業の成果と課題

(1) ～子どものためのコミュニティ・スペース～ワークレッシュ 及び 子育て拠点施設における一時預かり事業

核家族、専業主婦層を中心とした単発・不定期的な保育と共に、保護者の就労や都合による緊急の保育依頼のニーズに柔軟に対応した。昨年度より開設日数が11日減にもかかわらず、売上は昨年の1.4倍（約160万円増）、一昨年と比較すると、1.9倍（約260万円増）となり、子育て支援拠点施設における一時預かり事業がスタート（H24～）してから、8年間で最高の売上となった。

10月1日から幼児教育・保育の無償化がはじまった。当法人は無償化の対象施設となった（特定子ども・子育て支援施設等確認申請済）。利用についてのご相談は数件あったが、対象者からの保育利用の申し出はなかった。また、福利厚生サービス（リロクラブ・ベネフィット）の育児補助券を利用する家庭が増えた。

今年度最終月の2020年3月、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために、つどいの広場が休館となった際も、保育利用者数は減少することなく、8年間の月別のべ利用者数で最高的人数（377人）となった。小学校、幼稚園が休業となるも、保護者が仕事を休めないという家庭のニーズに応えた。

今年度で、地域子育て支援拠点事業（つどいの広場）の運営が終了すると同時に、2012年度に開始した拠点における一時預かり事業も終了した。15年間の大阪狭山市との協働事業は役割を終えた。この間、保育利用会員を増やし、多くの子どもたちの居場所としての役割を果たしてきたことは、大いに自負するところである。一方では、大人数の保育に追われ、本来目指すべき保育の実現が難しかったことは否めない。次年度から拠点を移し、料金体系を再編、月極コースや少人数の保育の復活によって、「日月火水木金土にふれる毎日」を実現するべく、地に足をつけ、原点に戻りより深みを目指す。これからも地域社会の中で支え合いのコミュニティづくりを進めながら、制度に縛られない本来の自分たちの仕事に取り組んでいく。



（２）大阪狭山市地域子育て支援拠点事業 （Ⅲ 事業の成果と課題）

大阪狭山市つどいの広場事業の運営を開始してから、５期
１５年が経過した。今年度もこの間に培った担い手の経験値
やスキルを土台に、紡いできた縁とつながりを力にして、地
域社会が抱える課題やニーズを捉えることに注力した。同時
に、安心して信頼できる家族や隣近所の関係を共に築き、
「お世話になり合えるつながりの回復」を目指した。

月に１回開設時間を延長して実施したおむすび村では、出
会いと憩いの場を提供し、子どもと子育てを応援するコミュ
ニティづくりを進めた。平成２９年度の開始当初は小学生や
その保護者の参加が多かったが、今年度は乳幼児と母親の参
加が増え、幅広い年齢層の住民同士の交流が実現した。参加
者や地域の方からのカンパや食材の提供、準備から後片付け
の協力などを得ながら、毎回平均４４名の参加があり大盛況
であった。食を共にする場作りが、安心して安全な関係と居場
所づくりに大きな役割を担った。

なつまつりや餅つきなど季節の行事の際のみならず、地域住民が日常的に広場に足
を踏み入れる機会が増えた。畑作り、草刈り、自作の農作物の提供、講座に参加す
る、絵本の読み聞かせなど、数々の協力や参加を得られたことは運営に大きな力とな
った。子育て中の親子同士に留まらず、いろいろな人との出会いの中で関係を築き、
親も自ら考え成長していくことができる環境は大切である。

今年度は「さわらび」を活用する新規の自主サークルの掘り起こしが出来なかつ
た。開設当初に比べ、用意された環境の中で、「お客さん」として参加することを好
む親が増えてきたことにより、自主サークルの立ち上げや存続が難しくなってきたこ
とが要因の一つと考えられる。また、参加者の子どもの低年齢化で母親にサークルを
立ち上げたいという余裕がないこともある。現状を鑑み、より一層、子育て中の母親
のエンパワメントをサポートすることが大変重要な課題と考える。自主活動に移行
し、「さわらび」で活動が続けていたサークル「うたくらぶ」、「親子でFUN いん
ぐりっしゅ」はファンズガーデン終了後の活動場所として自宅を利用し、継続すると
決めている。この場所で生まれ育ったサークルが地域に戻り、活動の輪を広げていく
ことを期待する。

この１５年間、「子育て支援」と言いつつも「支援する」とい
う構えではなく、自然に人と人とのふれあいの場をつくりだし、
支え合いの循環を作ることに努めてきた。今年度は広く多くの参
加を得ることは出来なかったが、常連となったコアな参加者同士
が互いにエンパワメントし合う関係性が持てるようサポート出来
たと自負している。この先もこの場で生まれた関係性や縁が途切
れることなく継続し、地域へと広がっていくことを願う。



(3) 児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス（Ⅲ 事業の成果と課題）

● 主要な療育の取組と成果

6期目は「比べる」～五感で確かめる・自他を認める～

《PA テーマ》 調和・加減・聴く／聞く・話す

自分の強みと人の強みを知ることから取組み、決して優劣をつけるのではなく、自分と人との違いを知ること、視野を広げ自意識を深めていった。日常生活から、味の違い、好みの違い、喜び・哀しみ・心配・共感などのいろいろな気持ちを感じ、伝えて交わすこと。そして、得意なことや出来る場面があれば、人から頼まれたり、率先して動くことに発展する。逆に、苦手なこと、出来ないと思ったときは、人に頼み、任せ、譲り、相談する力が養われたようだ。子ども会議やイベントの企画、遊びの提案など、年長者が中心となる活動が増えていった。さらに、小集団の日常生活の中で、他人を認めることと共に、「自分のすべき役割を自覚し、担っていく」という次年度のテーマにつながっている。

3期目から課題として取り組んできた「言葉」を基軸にした学びが、年々大きな力となって、子どもたちの中で育まれている。まずは自分のことを知って言葉で伝え、次は仲間のことを言葉で知る。そしてお互いのことを考え、一緒に楽しむ力、自力で悩む力につなげていく、という発達が見られた。

しかしその過程で、他人と関わる難しさも経験してきた。大人が間をとりもったり、方法を提案しながら、解決していくことを繰り返した。当事者となるだけでなく、身近で見聞きしている子たちの気持ちや意見も表現して取り入れながら、それぞれが自分の心や感情と向き合うことになった。また、身体の成長にともない、心の成長とのバランスも変わってきた。自分の進学や将来について考える力がついてきている中、自分たちでつくる居心地の良い場所、時には衝突しながらも距離感をとりながら作る仲間との関係がある。それらが、助け合える仲間を形成していったのだと考えられる。



このように、個々が主体となって意見・希望・不満を言える環境が出来つつあり、大人側が思いつかない、気づかされることが増え、予定していたプログラムを変更することさえあった。大人も、話し合いや対話の場に真剣にかかわることで、一緒に成長することができた。

とはいえ、子どもたちにとっては、家族に伝えにくいこと、社会では力を発揮しにくいことがまだまだ多い。それらは子どもたちが私たち大人側に提示した課題でもあり、関わる私たちも、知識や経験だけで子どもを誘導するのではなく、彼らから見えていることや感じているものに耳を傾けながら共に力をつけていきたい。関わる私たちもチーム。分担しながら、たくさんのことを発見し、共有していきたい。

6年間を旧市立幼稚園施設の中で、子育て支援拠点事業の参加者や保育の子どもたちと共に良い環境の中で育ってきたが、ついに2019年度末で移転することが年の瀬に分かった。年明けに保護者や関係者に向けてお伝えし、事情を説明しながら、多岐

にわたる協力と心強いご理解を得ることが出来た。

3 月半ば、移転先がようやく決まってから「子どもたちに引越しを伝える」という段階を踏んだ。その後は子どもたちも、自分たちの引越しを達成すべく、役割意識をもって関わり、それぞれに、お手伝いに留まらないつとめを担っていった。学校が突然長い休みとなった上に、心地良い自分たちの生活の場がなくなってしまうことに、驚きや不安が大きかった。しかし、徐々に自らを納得させて楽しい社会経験へと転換していく子どもたちの様子は、自立した生活者としての彼らの歩みを現実に見る思いだった。



以下にこれまでの療育テーマと学びの特徴を記しておく。

第1期 2014 年度「自分を知る・お互いに知り合う」

日常の挨拶やマナー行動が定着していったことによって、自分や他人への関心や自覚の芽生え、コミュニケーションの広がりや深まりを生み出した。

第2期 2015 年度「自分の身体を扱えるようになる」

【遊びが学び】のコンセプトに沿った成果を獲得しつつある。集団の遊びを楽しみ、自分の気持ちを自覚し、表現出来るようになってきた。他者への関わり合いの力と意欲も発現。

第3期 2016 年度「衣食住に密着した暮らしの体験」

興味と役割を持って生活を楽しんで営めるように、仲間と、または一人で。【暮らしがしごと】食べること・着ることにまつわる様々な所作を循環させ、生活力へと結んでいく。

第4期 2017 年度「食とコミュニケーション」「自分を知る・人に伝える」

色々なものを食べ、時に作り、新しい味を知りながら、言葉や行動を引き出す術とゆとりを持てるよう共にチャレンジした。支援される自分・支援される立場から、支え合い助け合う自分たちへ。

第5期 2018 年度「道具をつかう」

人と一緒に取り組むことや外出の機会を増やしながら、最大の道具である「言葉」でのコミュニケーション」を重視。希望をもった生活設計、喜怒哀楽の表現がより豊かになった。友だちとの輪、放課後の自由な遊び時間と放課後の集団を、子どもたち自身が獲得していった。

● 運営体制・周辺環境、次年度以降に向けて

児童指導員等加配と共に、福祉・介護職員処遇改善加算を継続した。人員の配置数や多様性は十分であるが、大人の背をゆうに追い抜いた中高生男児の比率が高まってきたところへ、児童指導員の定年退職や非常勤職員の転職予定も重なることから、年度途中に児童指導員の常勤転換、指導員の新規採用（医療技術職、共に男性）を進めた。

2018 年度中に記録用のフォーマットを簡便化したこと、クラウドサービスの活用に馴染んできたこともあり、日々の伝達や情報共有の効率化のみならず、本来の直接支援のゆとりや充実につながっている。



（Ⅲ 事業の成果と課題 （3）児童発達支援・放課後等デイサービスフェイス）

年度中の新規契約は、小学生 1 名、児童発達支援の 2 名で、2 歳から高校 2 年生までの幅広い層の子どもたちが集い、多様で理想的な小集団となった。進学・進級に伴い、当人達いわくフェイスの「卒業」を果たしてステップアップしていく児童、目標と希望をもって他の通所支援に「入園」を叶えた未就学児童たちもいて、事業所の移転と共に、次年度から新たな時代を進んでいく転機となっている。但し、新規契約の希望や問い合わせは、保育部門の元利用者や以前の見学者からが大半であった。



2018 年 4 月に新設された報酬区分により、2019 年度初頭から「区分 2 の 1」（中重度の障害児の利用日数が 50% 未満の割合）となり、延べ出席数は前年より 60 名近く伸びたにも関わらず、目標・前年比共に約 285 万円の減収（前年度より 1 割近く減）となった。さらに、年明けからの新興感染症の世界的大流行により、国内でも全国的な自粛要請ムードに伴う 3 月初めからの休校措置は、当法人のような業態の小規模事業者にとっては、大きなダメージとなっている。もとより運営費は保障されておらず、現状の通所支援事業の報酬体系では、契約児童の利用日数がダイレクトに収入に影響するからだ。今後も当面の間、子どもたちの放課後の育ちと地域生活を守る事業所や団体にとって、かなりの体力と忍耐が要求されることは必至である。

フェイスの管理者である和久は、年度末で、5 年間務めた大阪狭山市地域自立支援協議会（障害児通所部会）の代表を降板することになった。次年度から、名称も「こどもむすぶ会」と変わる。市内事業所が協力しておこなった初めての取組「放デイスポーツフェスタ」や合同研修は、大きな力となり得たので、工夫して何等かの取組を継続していきたい。他 NPO 法人が継続して主催されている「障がい児放課後支援学習会」など外部の研修で生まれる出会いや学びを大切にしながら、自社での内部研修を充実させ、一人ひとりが力量を上げ鍛錬を積んでいかなくてはならない。



年度末以降、様々な渦中にありながら、他部門からの応援はもとより、利用者や従業員の家族からの理解と得難い協力を受けることができ、活動拠点の移転を成し遂げられたことは、他に代え難い力となった。これまでワークレッシュでは、地域や学校とのつながりを大切に、家庭、とりわけ子どもたちを主役とした信頼と支え合いの関係づくりを続けてきた。その道のりと流れの中で、必然性と役割を感じ、来期より「保育所等訪問支援事業」を開始することを決めた。困難な時節にもご支持いただいた家庭からの信頼、地域社会の待望に応えていきたいと思う。

この度の経験を踏まえ、障害のある子どもを地域で育てていくための仕事や子どもたち自身が、大切な存在として社会に存在し育っていけるよう、法人全体で問題意識をもち、より広い視座を持って、他団体や関係機関とも協力し、連帯していければと思う。地域社会やメディアから受ける閉塞感や管理体制から、これ以上の孤立や分断、心身の健康被害を被ることのないよう、常々、法人の理念や事業コンセプトを確認し、立脚しておきたい。



IV 理事会その他会議の開催状況

- 理事会

- ・10月8日(火) 15時00分～19時00分

- 於) A' ワーク創造館 (大阪市浪速区木津川)

- 上半期人事考課・賞与、就業規則の改訂について

- ・2020年1月21日(火) 18時00分～18時30分

- 於) Cafe&bar Charge (大阪市内中央区内淡路町)

- つどいの広場事業終了に伴う事業の再整備

- 移転に関する諸課題について

- 第17回通常総会

- 2019年6月21日(金) 10時15分～12時00分

- 於) ファンズガーデン

- 正会員総数 11名 (本人出席9名・委任状出席2名)

- <議事>

- 1) 出席確認、議長選出

- 2) 第1号議案: 第17期事業報告(2018年度)

- 3) 第2号議案: 第17期収支決算報告(2018年度)

- 4) 第3号議案: 第18期事業計画(2019年度)

- 5) 第4号議案: 第18期収支予算(2019年度)

- 6) 第5号議案: 役員の選任及び報酬

- 7) 第6号議案: 議事録署名人の選任に関する事項



- 臨時総会

- ・2020年3月31日(火)

- 12時45分～13時30分

- 於) ファンズガーデン

- 定款変更、長期借入金の算入について

- つどいの広場事業終了に寄せて



● 全体会議、職員研修等

【全体会議】

- ・ 第1回 11月12日（火） 10時00分～12時 於）ファングガーデン
 - ①上半期の実績報告
 - ②寄付・賛助会員状況と、応援者募集
 - ③虐待防止研修（伝達研修：障がい者虐待防止・権利擁護研修他より）
 - ④地域子育て支援拠点事業への応募について
- ・ 第2回 2020年2月21日（火） 12時～13時 於）ファングガーデン
プレ全体会議（合同昼食会）
移転先選定の進捗状況・諸課題についての報告
- ・ 第3回 3月12日（木）中止

監督職・指導職・主任・事務局を会議メンバーとする「連絡会議」は、2019年度中は実施しなかった。

【職員研修旅行】

創立18年目にして法人の創立記念日を設定し、事業を休業し、初の宿泊研修を実施した。参加者11名。企画と現地仲介に際しては「こっとりと KAGA*」事業を企画運営する株式会社情報の輪サービス株式会社の佐々木妙月氏に協力をいただいた。



◆1日目 9月7日（土）

社会福祉法人 伊奈美園（片山津） 視察

片山津温泉郷 散策

山中温泉郷（まち歩き・加賀温泉郷 寛平ナイトマラソン会場 観覧）・会食
宿泊（山中温泉 河鹿荘 ロイヤルホテル）

◆2日目 9月8日（日）

鶴仙溪 散策

「こっとりと KAGA*」拠点の見学、事業解説受講、レポート作成

山代温泉郷 散策・九谷焼窯跡展示館 観賞

永平寺 拝観

*加賀市ワーク・チャレンジ事業 <https://kottorito-kaga.com/>

以 上